

～～東北ゴミ処理紀行～～



石川 秀樹



私の次男は、故郷の地を7年間踏んでいません。「父危篤すぐ帰れ」とラインしても一週間後に「元気ですか？」と既読になる状態です。そこで、意を決して夫婦で、宮城県古川市に住む次男の所に行ってきました。住居は「JR古川駅」の左隣り、会社は「JR古川駅」の右隣りと、仕事をする環境は100%整っていました。会社の借り上げアパートのため、「家族でも入室できない。」と言われつつ「1DK」の独身寮に入りました。「何ということでしょう」これが俗にいう「ゴミ屋敷」。3泊4日の東北めぐりは、ペットボトルとゴミと汚れの排除、洗濯物との闘いでした。

私のつぶやき

～～はじめまして～～



平石 夕輝



こんにちは！ビジネスプランの平石といいます。
2月に入社してようやく1ヵ月を迎えます。仕事には慣れてきたものの、覚える事が沢山あるので、とにかく勉強の毎日です。仕事は「穴のないよう丁寧に」を心がけているつもりですが、所々抜けている箇所が見つかるので、そこを改善していきたいと日々心掛けています。趣味は自作パソコンを組むことや、ドライブです。基本的にインドアな生活をしていますが、学生時代に運動を続けていた事もありスポーツをする事も好きです。私は「どんな事も楽しく」をモットーにしており、やるのであれば楽しく、真剣に取り組む事で自身の成長に繋がると考えています。私生活は勿論、仕事に対しても積極的に真剣に取り組むことで他の方を笑顔にできるような存在になりたいと思っています。



1～3月の税務・お知らせ

- ・4月・・・確定申告所得税 振替納税
確定申告消費税 振替納税
- ・5月・・・自動車税納付期限
- ・6月・・・住民税特別徴収額の変更
労働保険 年度更新
- ・算定基礎届のご準備を！

お休みカレンダー

2018年 4月							2018年 5月							2018年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニューズレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 36

春号

2018年4月



事務所の庭の桜も
咲き始めました
(^-^)/



去年の益田川
沿いの桜です。
立派です！



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>

こんにちは、安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、ありがとうございます。

寒い冬を越えて、いよいよ春の到来ですね。小鳥のさえずりを耳にしたり、道端に咲いた春の草花を見かけると、なんだか心が晴れやかになります。また4月というのは、ひとつの「節目」、「新たなスタート」、「新たなチャレンジ」のタイミングです。

そこで、当社にとっての「新たなチャレンジ」として、4月から集客を開始する、新企画をご紹介します。それは、「人を大切にする経営実践講座 全6回」です。当講座を企画するに至った背景には、「地域に、若者から支持されるような魅力的な会社を増やしたい」、そして、時間はかかったとしても、「企業の人手不足、地域からの人口流出といった根深い社会的課題に対応したい」といった、私なりの想いがあります。正直、当社もまだまだ未熟ではございますが、ぜひ、当講座を通じて、魅力的な会社づくりを共に目指して参りましょう！当講座の詳細については、同封のチラシをご覧ください。それでは今月号も、どうぞよろしくお願い致します！



代表取締役
安野 広明

「“相対評価”と“絶対評価”、どちらの人生を選びますか？」

メジャーリーガーのイチロー選手が、「打率」ではなく「安打数」を重視していることは、あまりにも有名です。

「打率」の場合、例えば、10打数3安打でも、100打数30安打でも、同じ3割バッターになります。ですので、「打率」で首位を狙おうと思えば、特にシーズン終盤は、「あまり打席に立たない方がよい」という選択もあり得るでしょう。むしろ「三振して打率が下がったらどうしよう…」と、打席に立つのをためらうようになるかもしれません。

イチロー選手は、「打率を下げないために、わざとベンチに下がる選手になりたくない」との理由で、「安打数」を重視しているのです。

ここで、「打率」は相対評価、「安打数」は絶対評価になります。相対評価である「打率」の場合、上記のように、他の選手の「打率」を気にしながら、打席に立つか立たないかを決めるといった側面がございます。言い換えれば、自分以外の周りの状況に振り回されるということ。

これに対して、絶対評価である「安打数」は、1打1打の積み重ねなので、常に、自分自身との戦いです。少しでも多く打席に立つ必要がありますし、「安打数」が一定量に達するまでには、長い時間がかかります。

おそらく、どちらの評価基準を持つのかによって、打席への向き合い方や、選手としてのモチベーションが、違ってくるのではないのでしょうか。

そして、このことは、人生に置き換えても同じです。つまり、他人との相対的な比較(＝相対評価)によって、自分が振り回されるのか、自分の中に揺るぎない軸(＝絶対評価)を持って我が道を進むのか、どちらの人生がやりがいや楽しさを感じられるか？ということ。

ちなみに私は、圧倒的に、後者(＝絶対評価)の人生だと考えています。

イチロー選手は、「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただひとつの道」という名言を残していますが、周りに振り回されることのない絶対評価によって、コツコツと我が道を歩んで行きたいものです。

第3回 コメディ・クラウン・サーカス

平成30年1月3日(水)に、弊社の地域貢献活動として『第3回コメディ・クラウン・サーカスin益田』をグラントワ小ホールにて開催し、約500名の方がご参加くださいました。

前回同様、開場時間より前に沢山の方が並んで下さり、弊社スタッフも始まる前からドキドキワクワクで、一緒に楽しむことが出来ました。

終演後は、クラウンと一緒に写真を撮る子ども達でロビーが溢れかえっていました！小さいお子さんから、ご年配の方まで幅広い層の方が来て下さり、本当に嬉しく思います。前回、前々回からのリピーターの方もたくさんいらっしゃいました！また、観客を巻き込んでのステージも多く、ご参加された皆様には楽しんで頂けたのではないのでしょうか？
今回も無事開催する事ができ、感謝しております！ありがとうございました！



本の紹介



『マンガでよくわかる怒らない技術』 著者：嶋津良智

「アンガーマネジメント」という言葉を知り、まずは簡単にマンガで読んでみようと思った一冊です。

読んでいる途中途中で、「うんうん」「そうそう」と納得しながら読み進めることが出来ました。怒らないことで発生するメリット、怒ることによって生じるデメリットが分かりやすく書かれています。ただその時の感情に流され怒っているようでも、実際は、自分自身が怒る選択をしているということ。だったら、どうしたら「怒らない選択」が出来るのか？

わかりやすくポイントがまとめてあり、たくさんの気づきを得ることが出来る一冊です。

島田 康恵



「これから出会うすべてが、“自分自身”をつくっていく」



以前、ある方から、「“自分自身”とは、これまでに会ったすべての総合体」だと教わりました。ここでいう「すべて」には、会った「人」、「モノ」、「出来事」など、あらゆるものが含まれます。つまり、この世に生を受けて現在に至るまでの出会いの中で、何か1つでも欠けていたなら、少なくとも「いまの自分」にはなっていないということです。「自分自身」を言い現す言葉として、とても分かりやすい説明だと思います。

もしもこの表現が正しいとすれば、もう1つのことが言えるでしょう。それは、「これから出会うすべてが、“自分自身”をつくっていく」ということ。そして、その出会いの多くは、「自分の意志」で選択することができます。

どんな「人」に出会うかに関しては、例えば、(家庭や職場の顔ぶれは変わらないにしても、)仕事終わりの時間や休みの日を使い、会いたい人に会いに行くことはできるでしょうし、直接会うのが難しければ、ネットを通じてつながることだってできるでしょう。

また、1人1人とのご縁を大切にしていれば、その先にある出会いに恵まれるなんてことも起きるはずですよ。

どんな「モノ」に出会うかは、例えば、スマホを四六時中いじっているのか、それとも書店に足を運び、本を一冊手に取るのか。これなんかも、自分で選べますよね。

どんな「出来事」に出会うかについては、もちろん不可抗力で不幸な出来事が起こることもあります。それを自分がどのように解釈し、行動につなげるかによって、次に起きるであろう出来事は変わってくるはずですよ。

いずれにしても、どんな出会いが待っているかは、自分次第です。それらの総合体が「自分自身」となっていくという感覚は、持っておきたいもの。1年後、3年後、5年後にどんな自分になっているのか、これからの出会いが楽しみです！

「“意味”を与えなければ人は動かない」



第二次世界大戦中、アウシュビッツなどの強制収容所に収容されていた心理学者のビクター・フランクル氏は、「明日は自分がガス室に連れて行かれるかもしれない…」という地獄のような環境下で、どういう人(＝囚人)が生きながらえることができたか？について、戦後、語っていらっしゃいます。

氏のお話によると、それは、体格のいい人でも、健康な人でもなく、最後まで「生きる意味」を失わなかった人だそうです。

例えば、「(神の思し召しで)クリスマスには家に帰れるだろう」という期待をしていた囚人は、「生きる意味」を失い、クリスマス直後に亡くなったのだとか…。まあ、この辺りの詳細については、フランクル氏のご著書『夜と霧』の中にエピソードとして書かれていますので、そちらに譲るとして、そういった極限状態に限らずとも、人は、「意味」を求めて生きる動物と言われます。

これは裏を返せば、人は、「意味」が与えられないと無気力になるということ。

例えば、左右に置かれた皿から皿へと豆を1粒ずつ移動させ、すべて移し終わったらまた元に戻すというような無意味な行為を、いつ終わるともなく黙々とやらせると、人は気が狂ってしまうそうです。確かに、想像しただけでも気が滅入りますよね(汗)。

したがって、「意味付け」こそが、人の生きる力やモチベーションを発動させると言えます。

そしてこのことは、会社置き換えても同じです。社員さんに「何をやるか」を指示しても、それを「何のためにやるのか」という「意味」を与えなければ、社内のモチベーションが上がらず、協力を得ることは難しいでしょう。また、社員さんにとっても、「意味」が分からず作業を続けることは、苦痛でしかありません。

「意味」の伝達不足は、経営者と社員さんのお互いにとって、「百害あって一利なし」なのです。

だからこそ、経営者は、「何のために会社が存在するのか？」「何のために現在の仕事をしているのか？」をしつこく相手に伝えるまで語り続けなければなりません。

すべての活動には、「意味」があります。

「意味」を伝えるための努力を惜しまないよう、心掛けたいものです。



＜安野からのおすすめコーナー＞

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

🌸 自己啓発書「扉を開けろ 小西忠禮の突破力」(高久多美男 著) 🌸

日本のフランス料理界の生きる伝説、小西忠禮(ただのり)氏の半生やメッセージが、テンポよくまとまっています。日本人として初めて「ホテル・リッツ・パリ」という世界最高峰のレストランで働いた小西氏は、コネなし、お金なし、語学力なしで、単身、フランスへ渡りました。しかも当時は、日本人が現地のレストランで働くななんて考えられない時代。小西氏はどのようにして、目の前に現れた重い鉄の扉(＝試練や困難)を1つずつ開けてきたのか？読めばきつと、心に火がつく本です！ちなみに、先日、小西先生と面談する機会に恵まれ、その気さくで謙虚なお人柄と、強い情熱に、ますますファンになりました(笑)。

🌸 ビジネス書「幸せな人は“お金”と“働く”を知っている」(新井和宏 著) 🌸

「生きていくためには、もちろんお金は必要ですが、お金は幸せになるための手段であって目的ではないのです」金融マンとしてお金と向き合ってきた鎌倉投信の新井氏が、人生が豊かになるお金の使い方、そして働くことの意味について語っています。周囲の価値観に流されやすい時代だからこそ、「物事の本質を見る目」を養うために、学生から社会人まで、多くの人に読んでいただきたい本です。

🌸 小説「信じられず候」(橋本升治 著) 🌸

当社が所在する益田市は、1600年の関ヶ原の戦いまで、益田氏が領主として治めていました。しかし、西軍(毛利側)の敗北を機に、20代益田元祥(もとよし)は、毛利に従い、益田市を離れる決断をします。徳川家康からの、「西石見(約10万石)を益田氏の所領として治めてもらいたい」という誘いを断って、毛利への忠誠心を貫き通したのです。その結果、益田の地には領主が不在となり、それまでとは異なる文化を育むに至りました。色々な意味で、その後の益田の歴史に大きな影響を与えることとなった益田元祥の決断の背景が、地元益田市出身の橋本升治氏により、丁寧に描かれています。

🌸 ビジネス詩集「考えてみる」(大久保寛司 著) 🌸

「人と経営研究所」所長である著者が、これまでに会った中小企業の姿や人々との語らいの中で、感じ、考え、気付いた思いの数々が言葉として紡がれ、織りなされた書です。読みやすく、かつ本質的。1頁めくるごとに、う～ん・・・と考えさせられます。手元に置いて、何度も読み返したくなる本です。

